高等学校グランドデザイン会議第６回検討会議概要

日時：平成１９年１０月１０日（水）
１４：３０～１６：００
場所：アラスカ会館　エメラルド

＜出席者＞
蛇口議長　友田副議長　相川委員　飯田委員　角田委員　加福委員　木村委員　櫻田委員　佐々木（潤）委員　佐藤委員　高山委員　豊川委員　野呂委員　藤井委員　前田委員　三上委員　山田委員

●開会

司会
　それでは定刻になりましたので、ただ今から高等学校グランドデザイン会議第６回検討会議を開会します。
　それでは、蛇口議長に議事進行をお願いします。よろしくお願いします。

蛇口議長
　本日の審議内容は、答申案と答申案の概要についてです。審議に入る前に、次第に従い、事務局から議事録の確認をお願いします。

●議事録確認

【事務局が、配付資料に基づき説明】

蛇口議長
　答申案については、事前に皆さんのお手元に配付されましたので、目を通していただいたものと思います。
　これまでの５回の検討会議の議事録を参考にしながら、答申案ができあがりました。事務局に、これまでの皆さんの意見をまとめていただいた資料が私の手元にあります。それを見ますと、皆さんから大変良い御意見をいただき、その結果が今回の答申案につながったのだと思います。書き方や内容の面で違うのではないかという部分もあると思いますが、今日は最後の会議となりますので、皆さんの思いや御意見をお聞かせいただき、議事録に収めて補完したいと思います。
　それでは、前回からの修正点について、事務局より説明をお願いします。

事務局

議長の指示により修正した主な部分について、御説明させていただきます。

前回７月２３日の検討会議で御審議いただいた答申素案から、字句について再度精査いたしました。

また、本文については、前回委員から出された御意見を反映しました。特に、分かりにくい表現については、説明を加えたり、表現を分かり易く改めたりしました。

なお、前回の検討会議において、答申素案に対する修正意見等がありましたら事務局へお知らせいただくという事にしておりましたが、各委員からの修正意見はありませんでした。

それでは、主な修正点を御説明いたします。

答申案４ページ、（１）１学年当たりの適正な学級数についてです。２段落目の３行目、素案では「このような状況の中で学校規模を全県一律に設定した場合、通学状況等に対応した学校配置が困難になる事が想定される」という表現にしておりましたが、分かりにくいという事から、「このため」以下のように、内容を修正しております。

５ページをお開きください。適正な学校規模・配置を実現するための方策についてです。③の校舎制の今後の方向性についてです。第２次実施計画後の新たな校舎制導入の可能性を説明しておりましたが、表現が繰り返しになっていた事から、①の統廃合の進め方の所で説明する事とし、最後の段落のただし書きを付け加えております。

６ページをお開きください。（４）定時制課程、通信制課程の今後の方向性についてです。２段落目のなお書きの三部制の部分は、前回検討会議の意見を踏まえて付け加えております。

９ページをお開きください。全日制単位制の所です。素案では本文の中に制度面の説明を含めて記載しておりましたが、８ページに説明部分を抜き出して記載しております。

主な修正点は、以上でございます。

蛇口議長

本質的な変更は無かったように思います。

それでは、友田副議長から補足があればお願いします。

友田副議長

前回、蛇口議長から、検討会議では専門委員会から出された検討事項の他にもたくさんの事が話し合われ、諮問事項以外にも提言できる事があるのではないかという事から、その事をまとめたペーパーが出されました。その扱いについて議長と相談し、それぞれの思いを「おわりに」として付ける事になりました。全体的には「はじめに」と「おわりに」という形に整え、「おわりに」ついては今後の高校教育に対する示唆、提言を載せています。

蛇口議長

前文として、「はじめに」という文章を大きな視点としてそのまま残し、思いの部分は「おわりに」という形で残す事になりました。

それでは、本文についての意見をお聞きしたいと思いますが、意見をお聞きするに当たり幾つか申し述べたいと思います。先程も申し上げましたが、今日は最後の会議という事で、文言、書き方、解釈の仕方という点で、若干ニュアンスが違うという事もあると思いますので、そういう部分について御意見をいただければと思います。これは議事録に残す事で補完させていただければと思います。

具体的な答申案の中には、前回の素案に無かったような大胆な提案もあります。しかし、どのように進めるべきなのかという具体的な姿は提示できていませんが、そこはこの会議の性格上やむを得ないと思います。

例えば、国際化教育の抜本的な改革とは何かという事は、それぞれ皆さんの思いは違うと思います。また、産業政策とマッチしたような高校、大学、教育機関の在り方も考えるべきであるという表現があります。それはとても良い事だと思いますが、どのように連携して行くかという具体策はかなり難しい問題です。リカレント教育という事が２度程出ています。これも予算が付くのか、付かないのかという事が前回の話題にもなりましたし、どこがどのように進めるのかというのは非常に難しい問題だと思います。ここで議論を尽くせない意味合いのものもあったと思います。

答申案の実施に際しての具体策について、思いがあればお聞かせいただければと思います。普通科の募集割合をどうするべきか、校舎制はどうするべきか、職業学校の呼称を改めるべきではないか、奨学金制度が追加されましたがそれが良いのか、また、新しいタイプの総合高校の在り方など、内容の濃い検討が多く含まれています。

また、生徒や保護者の思いという部分も皆さんから出されましたが、そういう事に応える、或いは厳しく対応しなければならない等の貴重な御意見をいただきました。

そこで、最終回として、自分は何のためにこの会議に参加したという事なども含めて、答申案について御意見をお聞かせいただければと思います。

A 委員

答申案を読ませていただき、素晴らしくまとまったと思います。今回は高校教育が中心となりますが、中学校を含めたこれからの青森県の取り組んで行く方向性が分かったという気がします。

特に、リカレント教育という話題がありました。リカレント教育は言葉自体が広がらない事があります。私自身も、これまでもリカレント教育に取り組んで来ましたが、なかなか広がらないという事がありました。しかし、今回きちんと取り上げられて行く事によって、言葉だけでなく内容も広がって行くのではないかと思います。

また、生涯学習という言葉も随所に見られます。これからの学習は小さい時から大学、或いは大学を出てからもつながって行くという事です。以前、私は定時制についての話

をしました。それは、不登校や様々な事情でどうしても学校に通えない子供がいて、そういう子供が定時制高校に通い、立ち直って大学へ進む子供もいるという事です。そういう意味でも、生涯学習という点でも大事な部分ではないかと思います。

最後に、読んでいて一番凄いと感じた事は、「はじめに」の部分にあります。「高等学校における３年間は、生徒一人一人が自分の夢を実現するためにあるという原点に立って」という部分です。私共の学校でも、進路、進学に加えて、自分自身の夢を持ってもらいたいと考えております。その夢は高校に入る事ではありませんし、大学に入る事でもなく、その向こうにある夢に向かって取り組んで行こうと話しています。そういう意味でも、高等学校がそのように取り組んで行く事は非常に良いと考えます。

B 委員

私は、保護者の立場で委員に加えていただきました。私自身がどういう事をすべきかを考えましたが、当初皆さんの話をお聞きするのが精一杯でした。保護者としては、この答申に基づき立てられる具体的な計画へ視点が行きます。そのために、具体策の案に携わった一人として、こういう視点でこの答申案が出されたのだという事を言えるようになりたいと思ってきました。

この答申案が出されるに当たり、私は色々な生徒がいる中で、全ての子ども達が学習する機会を保障するという観点で、統廃合や適正な学級数、不登校の子ども達の事も含めて提案させていただきました。その中で、定時制の問題も中に入れていただいたという事に関しては非常に良かったと思います。

また、答申案の「おわりに」で思いとして加えていただいた部分ですが、コミュニティーの役割という部分ですが、私も高校のＰＴＡ活動に携わる中で、地域との連携が大きな課題として上げられておりました。その中でもコミュニティーの振興のために学校を維持するのではなくて、地域が積極的に学校に関わって行くというのがとても大事な事だと改めて感じました。

今後、具体的な計画が出される事で、保護者間でも議論される事になると思います。そのためにも、私が知り得ている範囲で皆さんと話して行きたいと思います。

蛇口議長

広域化が進み、連携やリカレント教育を進めて行く中で、今後ＮＰＯの活躍が光になるでのはないかと思います。その辺も含めて御意見をお願いします。

C 委員

私も答申案を読ませていただいて、私が関係する分野として地域との連携という事が関心の高い分野でした。私もいくつか県の委員会等に関わっていますが、必ずと言っていいほど連携の話が出て来ます。しかし、実際に方針や計画などを作る訳ですが、お互いの立場があり、なかなか差が埋まって行かないという事が歴然としてあります。

例えば、最近、私は観光の事で地域に入って行きます。そうすると、地域の農業者なり、漁業者がきちんと連携をして取り組んで行くという事が非常に重要になって来ます。それができないと、なかなか人を呼び込む事もできませんし、楽しくならないという現実があります。今回の答申案の中でも、農業高校と工業高校の統合などが書かれていると思います。そういう事と共に、地域で実際に仕事をされている専門家の方々と高校生が触れ合う事で、社会に出て異業種の方に対し心の壁を持たずに連携できるような素地を作る事が非常に重要ではないでしょうか。そういう意味では、高校生の段階で連携について地域で積み重ねて行く、若い高校生が自発的に参加し、発言するというような具体的な道筋や仕組みが、この答申案に基づき作られて行く事を切に望みます。

D 委員

学科の中身などは十分に分からない部分もありましたが、これまで親の気持ちで色々な意見を述べました。都市部以外から通う事などを考えますと、６学級規模あれば、親の負担も掛からず、割と行きたい学校に通えるのではないかという思いから意見を述べました。

答申案を見ますと、少子化の状況など色々な事を考えるとベターな答申案だと思いました。私の立場として、地域の交通が不便な子ども達の今後を考えてしまいますが、そういう地域も考慮するという文言がありますので安心しています。しかしながら、全体的には、町村部の学校が縮小、または統合し無くなるという事になっています。青森県は新幹線が青森市まで来ると、青森～八戸間の在来線の本数が減る、または運賃が上がるという話があります。将来的に町村部の子ども達は、青森市に下宿しながら通うようになるのではないかという懸念があります。この答申案と共に、具体的な財源のお話はできないかもしれませんが、奨学金という事について今後考えて行かなければならないと思いました。

E 委員

２つの視点でお話します。１つは、答申案がここまでできる方法論についてです。全体のグランドデザイン会議の検討会議があり、その外に専門委員会が２つ、地区部会が３つあり、それぞれが融合しながらここまで進めてきたやり方は素晴らしいと思いました。教育機関が統廃合する事について、形式的な会議で進めるのではなく、たくさんの県民や関係者の意見を集約する形でまとめたというやり方は非常に良かったと思います。社会教育施設が、同じ教育機関でありながら、そのようなやり方を経ずに無くなったという経緯があるが故に、そういう思いが強くあります。

もう１つは、リカレント教育です。学校という施設があって、生徒がいて、それを支える地域の方々がいらしても、そこにやる気のある教師がいなくては教育機能がうまく働かないと思います。その教師達をどれだけ鍛えて行くのかという事が、県教育委員会の役割だと思います。そういう意味で、財政的に困難であっても教員達を鍛える場とし

てのリカレント教育を是非進めていただきたいと思います。

F 委員

この答申案を拝見させていただき、本当に皆さんが熱心に議論なされ、また専門委員会等の緻密な意見を融合させて、このように立派な答申案ができていると感じました。市教育委員会でも学区の再編も含む統廃合に取り組んでいますが、地域の話し合いを進める中で、暗礁に乗り上げているような難しい状況にあります。県立高校の在り方について、適正な学校規模や配置の在り方を実現するための方策は、地域との十分な話し合いを行い、実施に当たっては慎重に、拙速を避けるという事が大事ではないかと思います。

その他、私も定時制の高校に勤務した経験があります。現在の定時制の普通科課程の場合、不登校経験者という生徒が非常に多く、私がいた頃でも４～５割くらいが不登校を経験しているという状況でした。しかし、同じ仲間がいる事で、人が変わったように通学するという生徒達も多く見てきました。職業科の定時制については廃止を含めて見直しをするという事ですが、普通科課程の場合は是非残すべき学校だと感じています。そういう子ども達を引き受ける学校を残す事が必要ではないかと感じています。

G 委員

全般的にコンパクトに分かり易くまとめていただいたと思います。将来の青森県を担う若者をどのような人材に育てるのかというビジョンが明確に謳われている事、また基礎・基本を大切にするという事も謳われており、今後についてしっかりとしたベースができたと感じています。

そのための体制として、校舎の問題、科目・コースの問題、教える側の問題、その３つの問題を取り込んだ形で、今後の展望を分かり易くまとめていただいたと思います。

そのような中、教える側のリカレント教育の事ですが、先生方は日頃努力されていると思います。社会人を経験して先生になられる方も中にはいらっしゃると思いますが、生徒に教えるために色々な経験を積まれる事が、教育指導の面では充実するのではないかと思います。そういう意味では、リカレント教育というのは大切だと思います。

また、「おわりに」の部分ですが、本文に負けず劣らず大事な事がたくさん書かれています。是非、答申の実施に際しては、教育庁の方々には「おわりに」の部分も大事に捉えていただき、進めていただきたいと思います。

H 委員

この会議には、郡部の学校に勤めていたので、郡部の学校の意見を伝えるという事、また地区部会長という事で、地区の意見をまとめる事になりました。

地区部会では、素晴らしい方々を委員に選出していただきました。ＰＴＡの会合、会社や企業の会合などで情報を収集された上で地区部会に臨んでいただき、忌憚のない意

見を聞く事ができ非常に良かったと思います。そして、それらを事務局が会議資料としてまとめてくれました。専門用語もたくさん出て来ましたが、その都度解説していただきましたので、内容が良く理解できたと思います。

これから、県の方で少子化に対応した統廃合などを一般の方々に説明する事は大変だと思います。市内の高等学校は目指して入学しますので親に対しての説明はあまり必要は無いと思いますが、郡部の学校は地域と密着した学校ですから、地域の方々にどのように説明して理解してもらうのかという事を、今後は考えて欲しいと思います。この事は、地区部会の委員の方々の意見でもありますのでお伝えいたします。

「はじめに」の第４に教育の機会均等という事があります。この事に関しては、郡部で子供を持つ親の中には、教育の機会均等とは如何なる事なのか、少子化や校舎制等の新聞記事等を通して研究している方もいますので、その辺の対応についてよろしくお願いしたいと思います。

I 委員

私も地区部会を担当しています。地区の方々の意見を伺いながら、大変参考になりました。初めて教育に関する用語を聞いたという事もあり、参加された委員の方々は大変勉強になったと思います。

この答申案について、私としては非常に良くまとまっていると思います。このような委員会の話となりますと、青森県だけを対象とした話になってしまいがちですが、この答申案の中には青森県の将来を担う人材だけでなく、国際社会で活躍できるという文言が書かれています。そういう意味でグローバル化された社会ですから、青森県からそういう人材を輩出するという事はとても大事だと考えています。そのためにも１人１人を大切にする人づくりという文言もあり、とても良いと思います。

また、「おわりに」はなかなか良いまとめだと思います。これを具体化するのは、財政的な問題もあり大変だと思いますが、このような点も１つずつやって行く事により、青森県の素晴らしい高校教育が達成されるものと思います。

J 委員

私は、私立の校長会から選出され参加しております。

この会議が始まる時の事ですが、高等学校教育改革という名称がマスコミ等で報道されました。私は将来的な高等学校の事を話し合うのであれば私立も入るべきだろうという思いがあり、別な会議でこの事を質問したところ、なかなか県教育委員会は答えてくれませんでしたが、この会議は県立高等学校についての会議であるとやっと答えてくれました。そうであれば、県立高等学校グランドデザイン会議と書くべきだと思います。

今日初めての参加となりましたが、皆さんの大変な御努力によりまとめられたという事で、私立の校長会にもきちんと報告したいと思います。

K 委員

高校長協会の代表という事で参加させていただきました。

全体的な高校教育の在り方やシステムという事からは、この答申案は良い形だと思います。当初から私は、教育効果を高めるためにはどのような先生や学校規模が必要か、或いはどれくらいの施設設備の規模とするべきかという事や、また多様な生徒に対応するためにもある程度の規模は必要だという事を申し上げておりました。

最も大事なのは、子ども達は自分に無い色々なものを持っている子ども達と接する事で大きく成長するという観点はずっとおさえて来ました。ですから、私はある一定規模の学校の存続、または統廃合という事は答申案どおり必要だと思います。

本校の生徒が話した言葉ですが、「友の活躍から学び自らを高める場が学校です。」という事です。自分が持っていないものを持っている人達を見る、接する事で自らも成長するという事は、生徒の言葉からも裏付けられていると思います。

子ども達が県外に行っても通用する人間になって欲しい。いつまでも青森県にいるという事ではなく、どんどん外の世界へ飛び出して通用する人間になって欲しいという思いです。

この答申を如何に県民や子ども達に理解してもらうかというのが、次の段階だろうと思います。

私が気になっているのは、子ども達１人１人を見た時、高い志を持ち、大きな夢を持って、それを失わせる事なく、どのように達成させるのかという問題があります。子ども達もそれぞれ夢は持っていると思います。しかし、途中に山あり谷ありする中で、如何に努力を継続させるのか、また途中で忍耐が途切れる事もあると思います。その辺を家庭、地域、学校といった広がりの中で、どう育てて行くのかという事が次の大きな問題ではないかと思っています。

L 委員

基本的には少子化に伴って教育現場も縮小に向かうのだろうという議論の中で、私は主に子ども達の選択肢を確保するという考え方や問題意識を持って専門委員会で発言してきました。

諮問にある学校規模・配置の在り方は、私達第２専門委員会の範囲ではないのですが、今、青森県は人口が少なくなり過疎化が進みます。そうなると町村部の学校が今後どうなるのだろうという事はとても心配です。そういう状況の中で、答申案では町村部の統廃合は慎重にすべきと受け取れる表現があります。是非、町村部の統廃合は急がないで欲しいと思います。

通学の問題や奨学金の事など、子ども達の選択肢を確保するための仕組みを考えていただきたい。また、近くの学校へ通学できるような仕組みを工夫していただきたいです。そういう流れからすると、通信制や定時制はとても大事な事で、その事は明記されていると思います。

学科・コース等の在り方については、職業学科の括り募集という事は私にとって新しい感覚でした。学校に入学した後、ある程度の期間、勉強をしながら適性を探して行くという方向は賛成です。同じように、学科だけではなく工業高校から普通高校へというように、学校から学校へという事を検討できないかという意見を出しました。これは非常に難しいと思いますが、私はそういう思いが今でもあります。

また、職業学科の呼称の話があります。専門委員会で実業という話をしました。虚業に対する実業という意味です。職業高校は就職、普通高校は進学というイメージで受け止められがちですが、専門学科という呼び方もあると考えています。

最後に連携の在り方についてです。県では県民局を置き、それぞれ地域と県が近い形で取り組んでいます。そういう事について、専門委員会で話をさせていただきました。それぞれ地区にある私立高校も含めて、地域毎にこれからの高校教育の在り方を考えて行くのも良いのではないかと思います。

蛇口議長

そうですね。これからは、県民局との絡みも含めて考えて行く必要があると思います。非常に重要な論点だと思います。

M 委員

私は民間から教育界に入り、現在は専門高校にいるという事から、就職する人材をどのように育てるのかという立場で議論させてもらいました。

青森県の特殊性は、進学率が低く、就職の比率が全国に比べ非常に高いという事があります。その就職する人材をこれまで専門高校を中心に育てて来たという状況がありましたが、その専門高校も多様化が進み、進学が４割という状況もある事から、見方を変えて行かなければなりません。

また、普通高校から就職する生徒もかなりの数がいますので、この生徒達に対して、すぐに社会で活躍できる教育を普通高校だけで果たしてできているのかという事も考える必要があります。

この答申案については、国際化等まで視野を広げて、夢を抱かせて、それを持続させて行く事が非常に大切だという事が盛り込まれています。セーフティーネットの考えを現実にどうするかという問題もあります。例えば、ある高校から外れると子どもが行く場所が無くなるので、その子どもを抱えなければならない高校の現実があり、大多数の普通の子ども達に負担が行くという現実もあります。

この辺は、教える側の資質や技量が問われる問題だと思いますので、教師側のリカレント教育という事も考えなければならないと思います。

議論の中では、出口の立場から、就職する人材としてどのような生徒を育てなければならないかという事を話してきました。青森県の人材は非常に良いという事は外部から認められていますので、その辺を自信を持ってアピールする事がかなり重要だと思いま

す。
　多少気になったのが、普通科の比率を高める事が望ましいという表現が、果たして適切なのかという事です。就職が多いという青森県の特殊性から言っても、ここは、状況を見て普通科の比率を考えて行くというような表現にしても良いのではないか、という感想を持っています。

蛇口議長
　この文言は、最も意見が分かれる部分だと思います。実際に、現時点で普通高校からも就職する生徒が多くいます。普通高校と専門高校の離職率がどちらが高いのかという事もあり、そこまで議論が及びます。
　また、専門高校にはリベラルアーツ（教養教育）的要素が必要であり、普通の普通高校にもある程度の専門高校的要素が必要だと思います。おっしゃるように、職業人となるために、しっかりとした教育が重要であると思います。
　そういう意味合いから「普通科等の比率を高めるべきである」という表現を、「望ましい」に和らげてきました。決して父兄が言っているからという事ではなく、リベラルアーツ的な高校教育を重視したい、という事でこのような表現になったと私は理解していますので、御理解願いたいと思います。

N 委員
　第１専門委員会の委員長として、適正な学校規模と配置の在り方が主な役目でありました。資料にあるとおり、会議を６回開催しております。統廃合という現実的な事もあり、青森県の高等学校の在り方について率直に議論を交わして参りました。
　答申案のとおり、適正な学校規模として、１学年４学級、６学級という数を示しています。また、普通科と専門学科の比率についても踏み込みました。また、実施方法については、全県例外無く、また聖域無く行うという事や、地区毎の在り方、コミュニティー、校舎制、通学できなくなった場合はどうするのか、などについて踏み込んで話してきました。
　そういう事からしますと、答申案の割には、具体的な事まで踏み込んだ内容になっていると思います。専門委員会としては、難しい所まで入り込んでやり遂げたという思いがあります。
　私の感想としては、全体的には青森県の皆さんに対する思いやりのようなものが流れています。しかし、一方で中等教育の在り方の本質的な所まで表現できたと思っています。専門委員会としては、納得できる内容になっています。
　１つだけ抜けていると感じる部分があります。それは、教師による教育体制の在り方です。ほとんど教師には触れていないのですが、何をするにも教師がそこにいる訳ですから、単に規模の在り方を語っても私としては不完全燃焼という気持ちが少しあります。やはり、教師の皆さんの立場をどうするのかという事が、直接生徒の皆さんに反映しま

すので、何か大事な事が検討できないかと感じています。諮問には無かったのでそれに従ったのですが、大事な事ですので検討して欲しいという感想です。

蛇口議長

今のお話は大変に重要な御指摘だと思います。ただし、我々は全てを討議の場に載せる事はできなかったと思います。教師の評価をどうするかや、それを給与にどう反映するかなど、教師の問題を取り上げるとそこまで議論が進んでしまいます。その他にも色々あると思いますが、それは我々の検討会議、専門委員会ではできない事もあり、限界があると思っています。

O 委員

第２専門委員会では、社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方について、皆さんと話し合ってきました。答申案の内容については、我々が話し合った事が網羅されており、良くできていると思います。

私が会議を進める中で、当初は専門用語が多く戸惑いもありましたが、自分なりに各県の教育委員会の資料を読み、また各専門委員会、地区部会からの御意見をいただきながらまとめる事ができました。感想としては、社会の変化を描く部分が若干足りなかったり、少し息切れした所もあったかなという思いがあります。

私は、前回の答申策定にも委員として関わりました。当時も情報化という事から、世の中はペーパーレス社会になり紙は不要になるものと思いましたが、実際には私達の身の周りを見ると紙だらけの状況です。従って、現在の状況をそのまま引き伸ばすという未来と、新たなエポックにより変わる社会の姿があるのではないかと思います。

私は企業人という事で、出口に近い立場から、中学校・高校はやはり基礎・基本という事を落とし所にしてまとめてきました。どんなに社会が変化したとしても、一本筋が通っていれば乗り越えられるだろうと思います。そのために何が大切かというと、コミュニケーション能力であったり、社会との関わりが大切であると思います。

私自身の高校生時代の事を振り返ると、職業や世の中の動きについて何も分かっていませんでした。これからの高校生が、インターンシップ、社会参画、地域コミュニティーとの関わりなどを通して、多方面からのサポートを得ながら、自分の進路選択、職業選択ができるような仕組み作りに答申案を活用していただければと思います。

友田副議長

私は学校の現場におりますが、生徒数が非常に減っているという事を肌で感じます。現在の学校でも、二十数年前と比べると５００人以上減り、３分の２程度になっています。この事は、一部の都道府県を除くと全て同じ状況です。県の人口も減っている中で、郷土青森の活力が無くなり、やせ衰えて行くのはとても寂しい事です。そういう事からも、若い高校生への期待は大きいと思います。今回、平成２１年度以降の高校教育の在

り方の方向性を示すため、委員として関われたのはとても幸せだったと感じています。
　また、私が非常に評価したいのは、１４ページの部分の「社会に貢献できる人間として成長するためには、小学校から大学にわたる各校種間の連携・協力を推進し」という部分です。幼、小、高、大、地域が連携し、子ども達１人１人を大事に育てて行きましょうという事を示しました。また、「教員や地域関係者の情報交換の場の設定や協議会等の組織作りを支援する」という部分では、ずいぶん踏み込んだ内容となっています。これからは全員で、という形で進めるという事を最後に書き込めたのは大きいと思います。その中で、高校が中間に位置し、連携の要になるような大きな役割を果たしてもらいたいと思います。
　県教育委員会にお願いしたい事は、幼、小、中、高、大、地域の連携組織の作りを支援していただき、連携した教育については青森県に聞けと言われるようになってもらいたいです。

蛇口議長
　皆さんありがとうございました。
　ここで皆さんから、是非改めて加えたい事などありますでしょうか。
　それでは、これを持ちまして答申の完成という事とし、教育長に提出させていただきたいと思います。
　これまでの会議を振り返ると、検討会議、専門委員会、地区部会と実に多くの方々に参加いただき検討を重ねて来ました。皆さんの思いの部分は相当反映できたのではないかと感じています。
　これまでの皆さんの御協力に感謝申し上げ、審議を終えたいと思います。